

第4回酒田市総合計画審議会議事概要

1. 日時

令和4年11月18日（金）午後2時～3時5分

2. 場所

酒田市役所 7階 703号室

3. 出席者

酒田市自治会連合会連絡協議会	会長	阿部 建治
酒田市社会福祉協議会	会長	阿部 直善
荒生木材有限会社	総務担当	荒生 麻夕美
酒田市法人保育園・認定こども園協議会	会長	池田 祐子
酒田ユニサイクル ケセラ	代表	石黒 由香
酒田市環境審議会	副会長	大井 文
リトミックスタジオ passage	代表	加藤 千鶴
東北公益文科大学	学長	神田 直弥
東北公益文科大学	准教授	小関 久恵
酒田青年会議所	監事	佐藤 愛
酒田市食生活改善推進協議会	前会長	佐藤 初子
酒田市袖浦農業協同組合	理事参事	佐藤 久則
連合山形酒田飽海地域協議会	幹事	佐藤 克
庄内みどり農業協同組合	理事	高橋 身依
酒田ふれあい商工会	会長	富樫 秀克
山形県漁業協同組合	専務理事	西村 盛
酒田商工会議所	前副会頭	西村 修
生涯学習施設里仁館	館長	富士 直志
東北公益文科大学	公益学部長	三木 潤一
有限会社若葉旅館	専務取締役	矢野 慶汰
The Hidden Japan 合同会社	代表	山科 沙織

【事務局】

市長、総務部長、総務部危機管理監、企画部長、企画部デジタル変革調整監、
地域創生部長、市民部長、健康福祉部長、健康福祉部地域医療調整監、建設部長、
農林水産部長、上下水道部長、教育次長、企画調整課職員

4. 議事要旨

協議（１） 酒田市総合計画後期計画（答申案）について【資料１～３、当日配布資料】事務局より資料に沿って説明

意見等

（委員）

資料３の６ページ。酒田商工会議所として、〔本市の考え方〕の部分で付け加えていただきたいところがある。表中の「酒田商工会議所青年部」の出前授業の対象は、「中学生・高校生」とあるが「小学生」も含まれている。酒田市教育委員会、県教育委員会と連携させていただき出前させていただいているので、ご質問を寄せられた方にも、その旨お伝えいただければと思う。年間３０時間、３０コマぐらい、青年部９３名の講師派遣を目標としている。引き続き応援をよろしく願います。

（企画部長）

指摘の通り修正する。

その他意見等はなく、答申書案のとおり市長に答申することに全員同意。

【答申にあたり会長あいさつ】

酒田市総合計画審議会は、昨年８月に第１回の会議を開催し、以降、１年強の時間をかけ、全体会、部会を合わせ合計で２０回の会議を重ね、委員の皆様からの積極的なご意見を出していただいた結果、本日ここに答申を取りまとめることができた。この間、ひとづくり・まちづくり部会の阿部建治部会長、産業交流部会の西村修部会長、行財政部会の三木潤一部会長をはじめ、委員の皆様から多大なるご尽力をいただいたことに感謝申し上げる。

答申の作成にあたっては、総合計画の前期計画について成果を確認した上で、後期計画に向けた現状における課題を整理し、政策課題集として取りまとめた。前期計画においては、総合計画未来会議と称する市民ワークショップを開催し、市民の皆様からの意見を収集したところだったが、今回は、コロナの影響もあり同様な形での実施は困難だった。その代わりとして、市民向けのアンケート調査の実施やグループミーティング、パブリックコメントを実施し、広く市民の皆様からの意見を募集したところだ。こうした意見を踏まえながら、政策課題に向き合う形で、今回の答申をまとめている。

前期計画策定後の５年間で、時代が大きく変化を遂げている。その最たるものがコロナやウクライナだったのではないかと思うが、働き方や学び方、また交流のあり方についても、大きく変化を遂げていて、デジタルを活用するような形に変わってきている。デジタル変革は、急速なスピードを持って進められており、デジタル人材の不足対策は急務となっている。また、ダイバーシティやカーボンニュートラル、そして、再生可能エネルギー等、持続可能な地域づくりや社会づくりに対する関心はますます高まってきているところだ。人口減少

や少子高齢化が進む中で、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさにも留意するウェルビーイングの考え方についても、今日では大変重要であると主張されるようになっている。

こうした今日的な課題に対応すべく、今回の答申を取りまとめたわけだが、総合計画の基本構想においては、目指すまちの姿を表す合言葉として、「賑わいも暮らしやすさも共に創る公益のまち酒田」を標榜している。この合言葉は前期計画の際に作成をしたものだが、経済的にも精神的にも豊かな生活を送ることができ、誰一人取り残さない、そういったまちをつくっていくという考え方は、現時点においても、極めて重要な方針であると感じている。

酒田市においては、この答申の実施を通し、「賑わいも暮らしやすさも共に創る公益のまち酒田」の実現に向けて取り組んでいただきたいと切に願っている。

答申

【市長あいさつ】

ただいま総合計画審議会神田会長から答申をいただいた。感謝申し上げます。

会長のあいさつにもあったが、酒田市総合計画は5年前は2年かけて、約1400名近い市民の皆様から参加してもらい作り上げた計画だった。その活動を評価していただき私もマニフェスト大賞の首長部門の優秀賞をいただいたが、私が仕掛けたわけではなく、市民の皆様から頑張って作っていただいたこの総合計画が、その賞の大賞になったということで大変うれしく思ったのを思い出した。

今般は、コロナ禍ということもあって、後期計画の策定については、それは叶わなかったもので、総合計画審議会の皆様から大いに議論していただいて、この変化する社会に対応できるような酒田市総合計画の後期計画を作り上げられたらいいということで、昨年8月に立ち上げた。大変、深い議論を皆様からしてもらったと思っている。とりわけ、今日も女性が半分いる審議会だ。これは、酒田市にとっても画期的なことだ。「日本一女性が働きやすいまち」を目指す宣言をしている酒田市としては、この審議会でも総合計画の後期計画を作るにあたって、女性の意見をしっかりと踏まえた総合計画にしたいと思い、審議会のメンバーをフィフティーフティにさせていただいたが、期待通り大変すばらしい議論が展開されて、今回の後期計画がまとまったものと思っている。

また、私は、大学まちづくりというものを一つの看板に考えている。東北公益文科大学が、この酒田に立地をしている、これをまちづくりにもっともっと生かしたいという思いから、そういう政策を掲げて、市長を務めさせていただいているわけだが、今回のこの総合計画後期計画を作るにあたって、東北公益文科大学の先生方、神田学長が会長であることはもとより、東北公益文科大学の様々な識見、それから研究の成果を後期計画の中にも生かすことができたということで、このことも大変うれしく思った。

今後、令和5年度を初年として5ヵ年の計画が動くわけであるが、今回のこの計画の中で、やはり一番目玉になるのが、行財政部会の皆様からご苦労いただき、行政経営方針を計画の

真ん中に据えたところだ。前回の計画では、一番最後に行財政改革という形で記載されているわけだが、今回は中枢に据えられた。私は、今後の酒田市のまちづくりにとって、これがまず大事だということを訴えていたが、皆様からも議論していただいた結果、今日このような答申をいただいたと思っている。なかなか行政運営、これが基本で、これをまず大事にしていかないといけないところを、数値目標を掲げて、答申をいただいたということは、非常に重く受けとめている。これから、答申いただいた計画について議会に諮り、議会から承認をいただいて、来年度の予算編成などを進めていくわけだが、非常に今回のこの答申は重いものがあると思っている。持続的にこの酒田市がしっかりと市民サービスを提供できるような、経営母体として存続できるような、そういう視点でしっかり予算編成、それから今後の様々な施策や事業などについても、展開をしていきたいと思っている。

今年は河村瑞賢が、酒田港から西廻り航路を開いて 350 年という節目の年だという話もあるが、まさに、新しい旅立ち、新しい航海に酒田市が乗り出すにあたっての良い指針を皆様から、答申としていただいたと思っている。この答申をしっかり踏まえた上で、これからの市政運営についても進めていきたいと思っている。本当に長い時間、皆様にはご苦勞をおかけした。感謝申し上げます。これからもまた、これで終わりではなくて、自分たちが計画作りに関わったということもあるので、酒田市のこれからのまちづくりについて、折に触れていろいろな意見を聞かせてもらえればありがたいと思う。

その他 各委員より一言

(委員)

コロナの前と後で、だいぶインバウンドも変わったので、自分自身もいろいろと考え直すきっかけにもなったし、これから酒田にインバウンドも戻ってくると思っていて、それに向けても検討を進めていきたいと思った。貴重な機会をいただいたことに感謝申し上げます。

(委員)

本当に貴重な場に加えていただいた。感謝申し上げます。酒田商工会議所青年部は 25～49 歳までの組織、約 100 名で構成されているが、先ほどの市長が「東北公益文科大学があるまち」とコメントした通り、この街にもやはり 10 代とか大学生とか、社会人の前の若い方たちのビビッドな考え、意見というのはすごく必要なので、この質問状(パブリックコメント)を見ながら、こういうところ(審議会の場)にいてもいいのかなと思った。この前、新聞で見たが、大手企業の中でも 10 代の取締役が誕生している。22 世紀を見据えて、ということだろうが、次の世代、次の次の世代へ移っていく、その上でこれまでにない考え方も必要なのだと思う。酒田市のこういう場所が、今後そういう若い方たちの考えを吸収し、反映できるような装置であってほしいということを願っている。そして次の世代、次のプレーヤー、主役が住みやすいまちづくりをできるよう、背中を押していくことができればと思っています。旅館組合としても、商工会議所青年部としても精一杯頑張っていくので、宜しく願いたい。

(委員)

人口減少とか、消滅可能性とかも取りざたされる中で課題は山積しているわけだが、その中で、将来、なかなか、誰もこうしたらいいという絵を描けるわけではない。そういう中で、華やかなだけでなく、きちんと現実を見据えた将来について考えている答申になっていると思う。将来について考える良い機会になったと思う。今後ともそういう議論を深めていかなければならない。貴重な場をいただき感謝する。

(委員)

後期5年間ということだったが、前期の5年間の様々な課題が出てきて、いろんな目標を立てたが、なかなか難しい課題があるということで、そういった克服できなかった課題を、今後5年間にわたって、ぜひ発展的にその目標を達成してもらいたいと思っている。ただ、ここ2、3年前からコロナの状況ということで、だいぶいろいろな活動が停滞をしてきているので、目標通りにいかない局面も間違いなく出てくると思う。また、この前のように山形上空をミサイルが飛んでいくというようなとんでもないような事態も出てきたので、防災という視点からの問題も様々あって、必ずしもこの5年間は見えるようで、なかなか見えない時代に入って行くのかなと思うが、まずは、この後期の指針を目標に頑張っていたきたいし、その一翼として協力していければいいと思っている。

(委員)

私は、産業交流部会の部会長を務めさせていただき、部会員の皆様からは本当に貴重なご意見を頂戴し、より良い計画に仕上がったと思っている。この計画が絵に描いた餅にならないように、また今、世界中が混沌としているので、変化に柔軟に対応して行って、この計画書にある様々な目標を達成するように、皆様と力を合わせて一生懸命務めていただきたいと思っている。

(委員)

総務計画については、広い、大きな計画ということだが、中身は細かく書いてあって素晴らしい計画が出来上がったと感じた。これまでの話にもあったが、若い人たちが、この酒田で暮らしていく、いけるためには何をすればいいのか、行政から何をしてもらいたいのかをはっきり書いたものにして、行動をしていけば、いい酒田市ができるのではないかと思う。私は、海の方で仕事をしているので、今後もそういうところに協力して、酒田市がいい市政ができるように協力していきたいと思う。

(委員)

随所に酒田市の歴史、そして今置かれている現状を背景に、酒田市らしい後期の総合計画になったと思う。商工会としても、混迷し課題山積の中、持続可能なふるさと酒田市、地域社会になるよう努力していきたいと思っている。また、この度、策定に携わっていただいた審議委員の皆様、そして、職員、スタッフの方々の労苦に感謝する。

(委員)

農業の今の課題は、燃料や肥料の高騰、水田活用の見直し、産直の弱体化、何より高齢化による担い手不足が今すごく進んでおり、困っているのが現状だ。しかし、今は、それがずっと続くとは思っていない。5年後にまた総合計画を策定するときには、「夢があり儲かる農業」が実現するように、このことを自分のこととして頑張っていきたいと思う。

(委員)

労働界代表という立場で参加したが、私は毎日、高校生を相手に仕事をしているので、本常に毎日のように、いろんな地域の課題、酒田市の未来、そういった話を生徒とする機会がある。いくらかはその話を反映できたかと思っている。大変責任の重い、子どもたちの未来のため、責任のある会議に参加させていただき勉強になったと思っている。

(委員)

貴重な機会に参加させていただき感謝申し上げます。計画に従って物事に取り組む、我々も当然そのようにやっているわけだが、必ずやっていく場面では、計画の中でぶつかりあうこと、そこで深い悩みに入ってしまうことがあるわけだが、そういった時の判断基準としてこの経営方針があるのではないかと思う。今回はいい塩梅に整理していただいたと思うが、何かあった場合にはこの経営方針を、我々はどうやって、どういう優先順番をつけるといったところで、羅針盤になるような中身に整理していただいたと思って見ていた。これからも将来続く酒田市の動きの目標として、我々も、こういった動きの中で今後どうなっていくのか、一緒に物事をその時々で考えて、できればお話しさせていただく機会もあればと思う。

(委員)

私は、5年前の審議会にも参加させていただいたが、5年経ち高齢になったので、今回は片仮名文字とかも多くあり、頭の回転がついていくのがなかなか大変なように自分でも感じてきた次第だ。私たちは健康づくりに関わって活動しているが、これからも会員として酒田市の健康寿命延伸のために、コツコツと活動していきたいと思う。

(委員)

まずは、このような機会を頂戴したことを改めて感謝申し上げます。立場上、数々の委員会等に出席させていただいてきたが、このように多種多様な皆様の意見を聞いたというのは非常に私の中でも大きかったと思う。また、この計画は、今後5年の計画というところで、今まで以上の地域活性化やシビックプライドの醸成など、好影響を生むきっかけであることを願っている。

(委員)

貴重な機会を与えていただき感謝申し上げます。総合計画ということで、どうしても全体を網羅しなければならないということで、総花的というか全体を見なければいけないということがあり、非常に本当に難しいということも感じながら、でも、どれも大事で捨てられないというようなことも感じながら、計画の策定に関わらせていただいた。その中で、経営方針とか、戦略的展開ということで、今回、この柱に沿ってやっていくという、その視点はす

ごく大事だと感じている。酒田市の強みをより一層伸ばしていくというような形で、総合計画も、またさらに今後に向けてブラッシュアップしていければいいと感じた。私自身も大学生と一緒に地域の中に入って、住民の方とワークショップをしたりということを日々やっているが、その中で微力ながら、地域の魅力に住民の皆様自身が気づくということ、発見するという機会について、学生と一緒に協力していきたいと思っている。

(委員)

普段は赤ちゃんからシニアの方まで音楽を通じて活動をしている。酒田市の社会教育の分野やコミュニティ振興会でも活動している。この分野から外れて、いろいろな分野の話を伺えたこと、総合計画の資料は読むのが毎回大変だったが、いろいろ勉強をさせていただいた。スクール・コミュニティを中心としたまちづくりというところに、私は携わっていければと思うが、そのところは、今合併している学区とこれから合併する学区の差が出てしまうので、そこを駆け足でやっていただいて、皆様が充実した地域づくりをやっていければいいと思う。財政ということで話が出ていたが、未来の若者にどうぞ貯金をいっぱい残していただくような市政であってほしいということをお願いする。

(委員)

後期計画5-2「全員参加で作る美しいまち」という文章がすごく素敵だと思う。全員野球という言葉もあるように、今まで環境審議会に関わらなかったときは、自分に関係のない項目だとか事柄には全く目を向けずに、そちらの方には私は関係ないかというふうに、自分勝手な自分でおったが、今度からは、他人事ではなくすべて自分ごととして、いろいろな環境問題や少子高齢化、経済などいろいろな問題はまだまだ山積だと思うが、いろいろなことに興味を持って、こうすればいいのかということで、私も市政に関われればいいかなと思う。拙い意見にも耳を傾けていただき感謝申し上げます。

(委員)

1年強だったが、たくさんの方々の意見を聞くことができ、本当に勉強になった。感謝する。莫大な量をまとめたわけだが、全体を通してまた思ったのが、やっぱり酒田市だけに視点を絞るのではなくて、もっともっとズームアウトした視点から、もう1回見直して、酒田の特性を知って、オリジナルの政策がもっともっとあった計画ができたらいいかなど思った。お上から通達されたことを守らなければいけないのは当然だが、それでも、酒田市にあったオリジナルをどんどん作っていったらいいと思う。それと、普段は地域とか、子育て、人づくりに関わらせていただいているが、やはり、まちというのは人が魅力的であれば、移住してきたり、また遊びに行きたいというふうになる。それを体感している。人づくりがまず基本かと思うので、私は地道に自分の与えられたフィールドで頑張っていきたいと思っている。

(委員)

先日、実習生が10日間いたが、最終日に求人の募集があるかと聞かれて、地元就職したいのかと尋ねたら、「はい。地元がいいんです。」ということ胸を張って、まっすぐな目

で言ってくれたのを見て、嬉しいと思った。自分のふるさとに対する愛着というのを、こんなに胸を張って、まっすぐ言えるというのは、私もすごく嬉しかった。今私たちは、0歳児から預かっているが、その子どもたちが、地元酒田に愛着を持って、本当に大好きだというふうにして育てて行って、その子どもたちが、酒田、地元で活躍できる人間になれるように、私たちは自然の中で、酒田の郷土の行事であったり、自然に対してどんどん関わっていったりとかして、そういう子どもたちを育てていかなければいけないと、今回この審議会に携わったことで、私自身もまたすごく強く思った。これからも、骨太のしっかりとした子どもたちが育つように、見守って頑張っていきたいと思う。

(委員)

この委員になって、先に市長が言った「日本一女性が働きやすいまち」を目指す宣言を酒田市がしているということ、一番最初の審議会ですべて初めて知った。そのことについて、他の人たちは知っているのかと思い、女性の友達に聞いてみたが、知っている人が1割ぐらいだった。その1割の人は、商工会に勤務している。平成29年ということだったので5年ぐらい経っているのに、浸透してないのが残念だというのは、ものすごく感じて、せっかく酒田市がこんなことしているのに、すごく知らないことが多くて、私もこの審議会に参加して初めて、小学生みたいなことで申し訳ないが、自分の住んでいる酒田市は、こういうことに向かっている、こういうことを考えて、こういうことをしているというのを、よくわかっていない自分が恥ずかしかった。そういうことを知る機会を得られなかったということも残念に思った。資料3を見たが、高校生が行ったアンケートの中で、酒田市に住み続けたくない人が65.8%もいるということで、7割弱。そのアンケートに答えてくれた子たちは、酒田市がどういうことをして、どういう方向に向かっているのか、そのことを多分大半の子が知らないのではないかというのを、自分自身のことと重なって感じた。もっと自分の住むまちに興味を持って、そして、情報を得ることで、毎日の生活が、学校生活や仕事に対するモチベーションも上がってくると思うので、その結果、酒田市に住み続けたいという答えに繋がっていけばいいなということ、ものすごく感じた。とても勉強になる1年間だった。それと、林業で来ているので、本当に豊かな資源が山にはいっぱいあるので、衰退することのないように頑張っていきたいと思っている。

(委員)

まず、私も相当程度意見を具申した。また、委員の皆様からもたくさんあった。それらも事務局で受けとめて、きちんと回答をしていただいて、そしてまた計画の補強という形で成し遂げてくれたことに、お礼とご苦労さまでしたということをお願いしたい。これからのことについてだが、市民に対して市政参加を求めて、それに関する指標も設定しているということは、同時に、市民に対して市政参加を求めるだけではなく、地域活動やボランティア、そういったものに対して市の職員が参加をする、或いは主催をしていくという気持ちも大事なのではないかと思う。行政と市民が刺激しあっていくことによって、一体感のあるまちづくりができていくのではないか。ぜひ、この計画の実践を通して、そのようなことができ

ていけばいいと思う。社会福祉協議会として、一緒にできることも相当数あるようなので、市と連携・協働してやっていきたいと思う。私も勉強させていただいた。感謝する。

(委員)

酒田市自治会連合会連絡協議会は、オール酒田の自治会長会の会で、おととい、役員会があった。その中で自治会長が考えていることを少し申し上げたいと思う。今、一番我々が関心を持っているのはスクール・コミュニティ。というのは、我々はこの地域コミュニティをどうするかということで考えてきている。それで、今回このように計画に記載されたが、このスクール・コミュニティについて、私も地域コミュニティまちづくり協働指針の策定に関わっていて、8月8日に講演を聞いた。秋田の学校の校長先生をした方が退職して指導員になって、全国を回っているらしいが、8月8日に初めて話を聞いたときに、この皆川先生はコミュニティスクールと言っていたが、何を言っているのだろうかということで、全然理解できなかった。それで私だけ聞いても駄目だということで、酒田市内の自治会長を集めて、文化センターでもう1回講演してもらった。参加した自治会長がだいぶ喜んで帰っていったが、じゃあどうするかということ。まだまだ見えないことだが、これは向こう5年かかるのか、何年かかるのかわからないが、(方針として)もう完成した船を出さなきゃ、もう出航するんだから乗らなきゃならないじゃないかということで、大体の意見がこういう意見だった。もう一つ、ものすごく嬉しいことで紹介したいが、皆川先生は、酒田市のこの総合計画について、5年前私も思ったが、老若男女、市民を入れて、ワークショップ式にやったのはすごい、これは酒田しかないとお褒めをいただいた。それから、このタイトルの書き方は誰が書いたのか、すごい書き方だと、こういうことはないということで、忖度もあるだろうが、お褒めをいただいた。我々も、皆川先生にまた来年度始まる前に、もう1回ぐらいお呼びしてもよろしいですかということで聞いたら、何度でも来ますということで、お帰りになった。このようにして、我々は住民の幸せのためには、もっともっと頑張っていかなければならないと思った。私の母親は、私に「男は死ぬまで勉強だよ」ということをいつも言っていたが、この総合計画の策定に参加させていただいてものすごく勉強になった。感謝する。ただ一つ、おとといの会議の時に、自治会長の皆様が心配しているのは、地域プロデューサーは誰になるのかということ。ものすごく難しい。中学校単位であれば、中学校は7校ある。7人いるのか。市街地と農村部と旧三町と違う。歴史と伝統とまた違うので、これはどうやってやるんだろうというのが、ものすごく心配の種だった。この中に5年間かけてと書いてあるが、我々も一緒になって進めていきたいと思う。子どもの明日の幸せのために、夢と希望をいっぱい持った子どものために頑張っていきたいと思う。

(会長)

今回の総合計画については、政策課題集をしっかりと作り込んだ上で、各課題と対応していくという形で作成をしているので、それがすべて解決できれば、非常に大きく酒田が変わっていくのではないかとということで大変期待が持てるような内容になっているのではないかと感じている。今後の実施にあたっては、市のみで実施をしていくということではなく、

当然、我々も一人ひとりそれぞれの立場でできることに取り組んでいくことが求められていると思うし、現在はそれぞれが個別に動くということだけでなく、連携・協働というものも重要であると思う。今回、こうした場で、我々自身、交流をする機会を持ったわけなので、引き続き連携をしながら、よりよい酒田のまちづくり、ひとづくりに向けて取り組んでいければと期待している。

以上